

脱炭素先行地域

資料 4

# 国の「脱炭素先行地域」への選定について

---

---

令和5年11月30日  
環境局

# 1. 「脱炭素先行地域」の概要

## ■ 「脱炭素先行地域」とは

2030年度までに、民生部門（家庭部門および業務その他部門）の電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出実質ゼロを実現するとともに、運輸部門等その他の分野も含めて温室効果ガス排出削減を目指す地域を、環境省が2025年度までに**少なくとも100カ所選定**するもの。選定された場合には、「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」が交付される

## ■ 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金

交付対象	地方公共団体
交付率	原則 2/3
交付額	最大50億円/計画
交付期間	概ね5年間
支援内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・再エネ設備（太陽光発電設備等）</li><li>・省CO<sub>2</sub>等設備（高効率空調、LED照明等）</li><li>・基盤インフラ設備（エネルギーマネジメントシステム等）</li></ul>

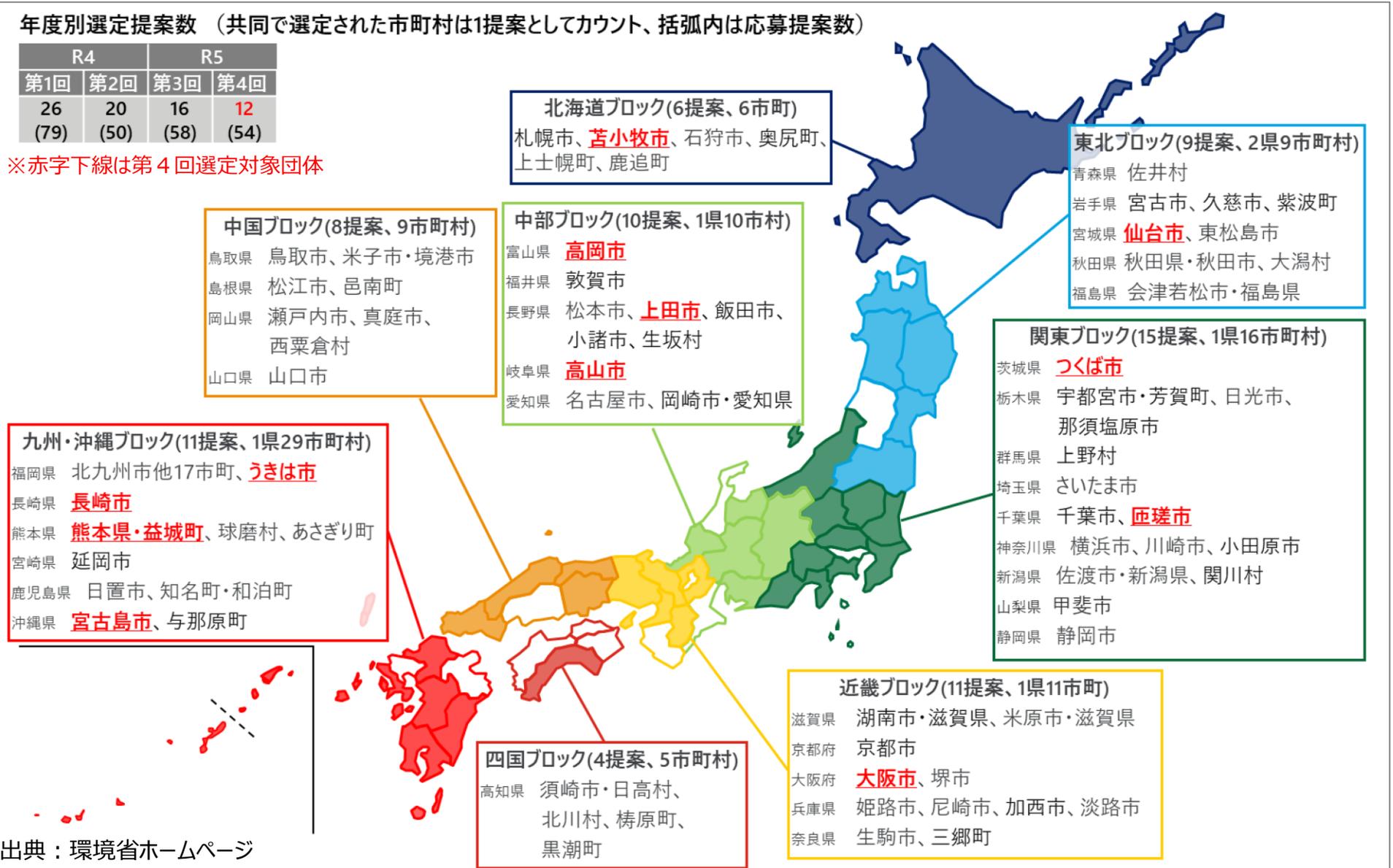
## 2. 「脱炭素先行地域」の選定状況

・ 第4回において**12提案**が選定。第4回までで、**74提案**が選定

年度別選定提案数（共同で選定された市町村は1提案としてカウント、括弧内は応募提案数）

R4		R5	
第1回	第2回	第3回	第4回
26	20	16	<b>12</b>
(79)	(50)	(58)	(54)

※赤字下線は第4回選定対象団体





脱炭素先行地域

# 3. 本市の計画提案（取組の全体像）

タイトル

**109万市民の“日常”を脱炭素化** ～「働く人」「暮らす人」「訪れる人」が豊かな時間を過ごせる“新たな杜の都”～

事業期間

令和6年度～令和12年度（交付金の活用は令和10年度まで）

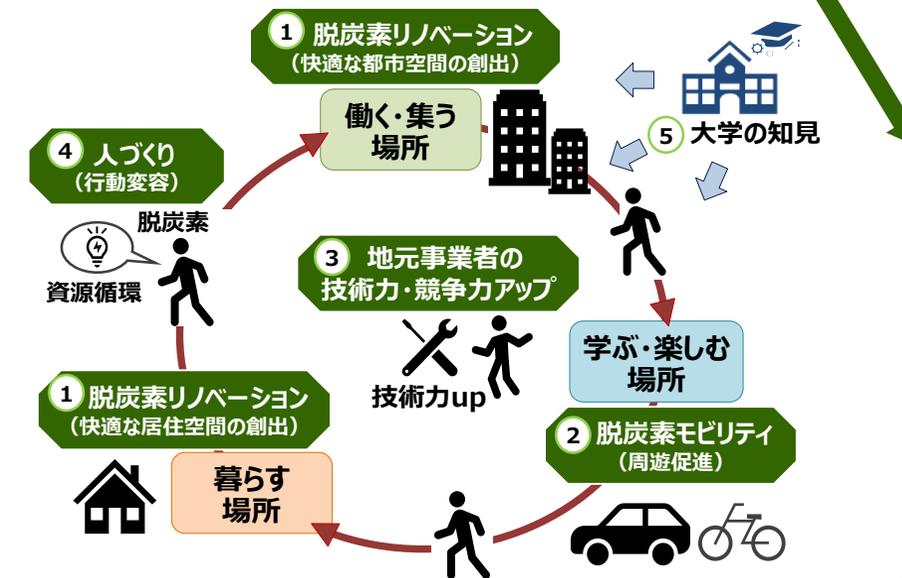
取組の方向性

- 2050年ゼロカーボン社会に向けて、**109万都市・仙台の日常を脱炭素化**
- 2030年以降を見据え、市民の意識醸成と**地元事業者の技術力・競争力向上**を図る

## "日常"の脱炭素化に向けて

- ① **脱炭素リノベーション**で、快適な都市空間を創出
- ② 脱炭素モビリティで、市内の回遊性を向上
- ③ **地元事業者の技術力・競争力をアップ**
- ④ 脱炭素・資源循環の**人づくり**
- ⑤ **東北大学の知見**を活用した取組の高度化

本市を象徴する3エリアで取組を展開



## 定禅寺通エリア（働く・集う）

- 省エネ改修・ZEB改修など「**業務ビルの脱炭素リノベーション**」を実施
- また、ビルオーナー・地元事業者向け**ZEB改修体験会**を開催
- ゼロカーボンイベントなど脱炭素の「見える化」を促進
- 「**都市バイオマス資源**」を活用し、サステナブルなまちづくりを推進

## 泉パークタウンエリア（暮らす）

- 太陽光発電等の導入や断熱改修など「**住宅の脱炭素リノベーション**」
- 高度なエネルギーマネジメント（DR/VPP）を既築住区で展開
- 地元工務店と連携し**リノベーション体験会**や**断熱スクール**を開催

## 東部沿岸エリア（学ぶ・楽しむ）

- EVカーシェアなど、**脱炭素モビリティの導入**
- 太陽光パネルのリユースなど、防災・環境技術の実証フィールドに活用
- 観光施設等に**再エネを最大限導入**

## 全エリア共通

- **地産地消型の再エネ電力メニュー**を新たに創設
- 省エネ推進など、市民の行動変容を促進
- 市営バス、ごみ収集車、配送トラックなど**運輸部門の脱炭素化**

## 4. 特徴的な取組

### 中小規模の"雑居ビル"の脱炭素化モデルを創出

#### ■ エリアの特徴

- 定禅寺通エリアは個人のビルオーナーが所有するテナントビルが多く、老朽化が進んでいる
- 道路の再整備が予定されており、周辺エリアを含めた新しいまちづくりの機運が高まっている

#### ■ 先進性・モデル性

- **中小規模の"雑居ビル"の脱炭素化**は、テナントとの調整など、ビルオーナーにとってハードルが高いが、ゼロカーボン社会の実現に向けては、今、改修時期にあるビルの対応が極めて重要である
- 営業を止めない**「使いながら改修」**の推進や、**地域団体・地元事業者等によるサポートの仕組み**により、オーナーが抱える課題を解決。そのプロセスも含め、他都市に展開できるモデルを創出する



定禅寺通の周辺景観



定禅寺通エリア内の雑居ビル

### 「都市バイオマス資源」の最大活用で、 並木通のサステナブルなまちづくり

#### ■ 取組の概要

- カラスによる事業ごみの散乱が課題となっている定禅寺通に事業ごみ集積所を設置し、事業系生ごみを**バイオマス発電**に利用。収集には**EVごみ収集車**を導入する。また、ケヤキの剪定枝もバイオマス燃料として活用する
- **剪定枝の一部は市内で収集した家庭系プラと混合しオリジナルタンブラー**を制作。地域のイベントで活用する

#### ■ 取組の効果

- 都心部における再エネ創出や、資源循環・サーキュラーエコノミーの推進、市民や事業者の行動変容促進、景観の改善や地域のブランドカアップによる定禅寺通ファンの増加といった、**多くの相乗効果**が期待できる
- **全国の並木通に展開**できる、サステナブル・エコロジーなまちづくりモデルを創出する



定禅寺通の事業ごみ散乱の様子



オリジナルタンブラーイメージ  
(出典：アサヒユアスHP)



# 5. 推進体制

脱炭素先行地域

